

## 解説

1

出典： 池内了 『転回期の科学を読む辞典』

### 問一

科学と技術と社会の連関についてきちんと考える理由を問う問題です。これらがひとつながりとなって連関していることは傍線(1)の前の段落に書いてあり、そこには、8行目に「時代とともに、その時間スケールが短くなり、生じうる影響が大きくなってきた」とあります。そこで、ウが正解になります。

### 問二

科学と技術の違いについては、20行目「しかし、いったんは」から25行目「複雑系を相手にする。」までに書かれています。この部分から十九字でまとめている部分をさがすと、20行目の「科学と技術は別々の人間の営みであること」が見つかります。

### 問三

傍線(3)では「技術化」に際して、「人間」や「社会」が絡んでいると述べています。人間や社会が技術に与えた影響については、39行目「人間の欲望…」の一文に述べられており、設問では「具体的」な十九字の箇所を抜き出すことになっているので、「人間の欲望や虚栄心、国家の威信やメンツ」が正解となります。

### 問四

いくつかの意味を持つ漢字の本文における意味を考える問いです。

傍線(4)では中身という意味で用いています。同じ意味のものは、イになります。

アとウは「まごころ」という意味であり、エは「実(み)」という意味です。

### 問五

傍線(5)の前に「そのような人間の矛盾した心理を深く把握する」とあります。次に「そのような」が指している、人間の矛盾した心理について考えます。76行目の部分に「技術の設計思想では、人間は誰もが合理的な使い方をするという前提に立っている」が、実際には「バカな」使い方や「考えられない」行動をすることが書かれています。

「人間の矛盾した心理を深く把握すること」について書いているか、さらに矛盾した心理の内容を書いているかがポイントになります。

### 問六

科学技術に対して過度の信頼をしてしまった結果、取り返しのつかない事故につながるものが書かれています。事故や間違いがないように完璧な技術を追求することよりも、人

間が関与することが大切であるという内容が 93 行目の「私はむしろ」から 95 行目の「考慮すべきと言いたいのだ。」の二文に書かれています。四十字という字数を考えると、後ろの一文を用いた方がまとめやすいでしょう。

問七

平易な漢字の問題です。

問八

内容合致の問題です。39 行目から 44 行目の部分がイと合致します。アは、選択肢後半部分が本文には書かれていません。ウは「まず新たな原理の追求や技術体系を全面的に再検討することによって解決を試み」の部分が誤り。エは、人間心理をシュミレートできる技術の開発によって事故が防止できるわけでないので誤りであるとわかります。

2

出典：泉啓子『夏のとびら』

問一

29 行目と 90 行目に書かれているとおり、今できることについて考え、後悔しないために行動に移したわけですから、麻也がクラにしたことは何かを書きます。

問二

クラの母は、最初は何のためらいもなく娘を呼びにいきますが、47 行目に「容子、ぐあいが悪くて、学校帰ってきてから、ずっと部屋でねているの」、50 行目の「だれか来ても、会わないって・・・」とあり、クラが「麻也に会いたくない」と伝えたことが予想されます。そのため、態度がおずおずとしたものとなったのです。そこでアが正解です。

問三

麻也が訪問したことを告げられたクラの心の中では、BCのことが気になっていたと思われれます。そして、「ぼんやり」とした放心状態はBCでうまくいっていないゆえであり、その心情を表す語をさがすと 73 行目の「わたし、自信ないの・・・」という箇所が見つかります。

問四

クラに試合に出てもらうために説得している部分を探します。8 行目に深雪がクラにボールをまわしていないことが書かれ、それをうけて 69 行目以降でクラと深雪がよいペースをつかめるようになるはずだと言っています。つまり、試合が近いのにチームの仲間とうま

くやっけていけないことが読み取れるはずですよ。

#### 問五

傍線(5)の後で、「クラ、すごくうまくなったもん。今のチームにはぜったいクラが必要なんだよ」と言っており、クラの実力を認めていたことがわかるウが正解です。アは「とりあえず励ましの言葉をかけて」の部分が、イは「強く迫ることで」の部分が、エは、「どんな時でも素直な気持ちになれず、同意することができない」の部分があてはまりません。

#### 問六

平易な慣用句の問題です。

#### 問七

主人公麻也の心情の変化を読み取る問いです。今までは、クラに対して「ぜったいクラなんかには負けない、必ずポジションをとりもどす」(83行目)と強いライバル心を持っていました。が、そのような個人的な感情より「チームのためにできること」(90行目)に重きを置いて考えられるようになったことが書かれています。

#### 問八

内容合致の問題です。

アは「個人的な問題の解決を待たずに一刻も早く送る」の部分が、イは「チームをやめた彼女の行動を非難する」という部分が、ウは「軽蔑していた」の部分が本文の内容と異なっています。エは、5行目で「カンケーない」と思いながらも13行目から15行目でバスケットをやっていた当時のことがよみがえっており、思いを断ち切れないことがわかります。エが正解です。